

#### ④国指定 三十三間堂官衙遺跡

(さんじゅうさんげんどう かんがいせき)

平安時代の陸奥国巨理郡衙（郡役所）の跡。保存状態がよく当時の地方行政官や政治機構を知るのにも貴重な遺跡で、平成4年には国指定の史跡になりました。

「昔、飛騨の匠がこの地に来て、三十三間堂を一夜で建てると言って工事に取掛かった。夜明け前にあまのじゃくが一番鳥の鳴き声をまねして鳴いたので、匠はもうすぐ夜明けになるのでは建物の完成は無理である。それではみんなにうそをついたことになると思い逃げ出し、礎石だけが残った」という伝説があります。



見渡しの良いところですので、ここで弁当を広げてはいかがでしょうか。

#### ⑤石間神社

(いしまじんじや)

巨石や割れた岩のかたまりが数多く、その石間に小さい祠があり山頂に社を建てました。境内には邪悪な存在の侵入を防ぐ狛犬の代わりに稲荷神の遣いと言われる狐が参道を見守っています。一の鳥居をくぐり石段に向かって左側には柵をめぐらせた窪みがあります。これは清水の湧き出した泉の跡であり、「波合いの清水」と呼ばれ人々に親しまれていました。また、神社の西北に以前あった古い杉の木は、甲冑を着けた兵士の形に見え、夜遅く通行する人が見て驚いたため「驚き杉」といわれた民話もあります。

#### ⑥椿貝塚

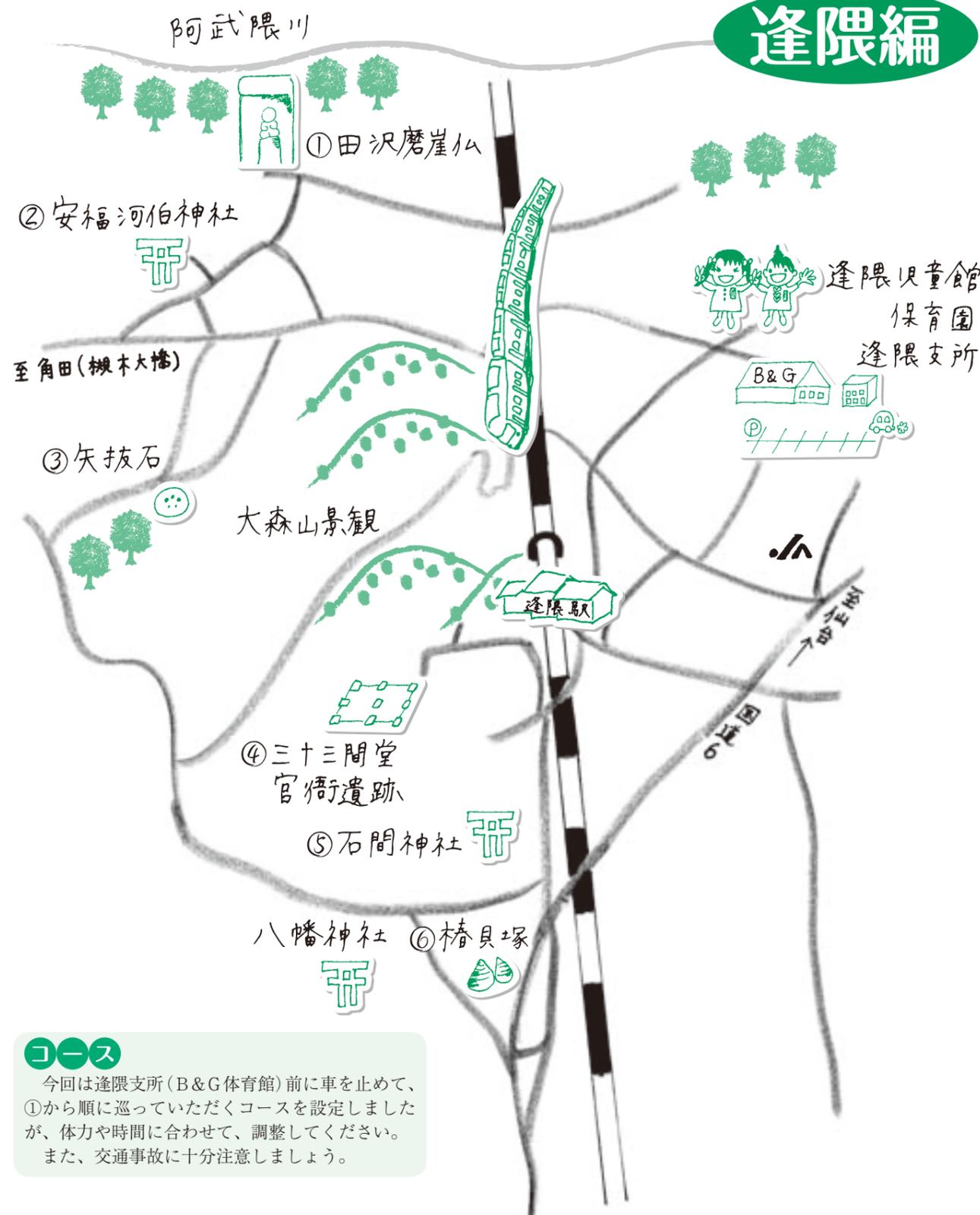
(つばきかいづか)

3000～4000年ほど前の遺跡で、当時の人びとが食べた貝殻が堆積しているところから、貝塚といわれています。貝塚のあるところは、大昔海岸が近かったと考えられています。ここから縄文土器、石器、獣骨、魚骨、おもり、石おの、石さじ、つりばり、その他たくさんのもが土の中から出土しました。



石器や骨、貝などを持ち帰ることは禁じられていますので、ご注意ください。民家の入口付近にあります。

# ぽっかぽかの春 家族で文化財を巡ろう!

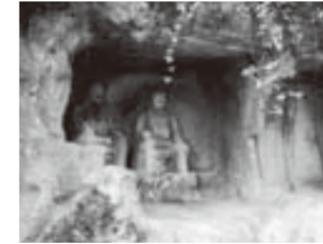


**コース**  
今回は逢隈支所 (B&G体育館) 前に車を止めて、①から順に巡っていただくコースを設定しましたが、体力や時間に合わせて、調整してください。また、交通事故に十分注意しましょう。

#### ①田沢磨崖仏

(たざわ まがいぶつ)

阿武隈川に突き出たがけの岩肌に彫刻された磨崖仏は、岩地蔵とも呼ばれ親しまれています。この場所は、昔の要路であった東海道の渡し場「稲葉の渡し」で、左甚五郎が船を待つ間に彫り上げたという伝説が残されています。



※磨崖仏を見るためには階段で下ります。足元に注意し無理をしないでください。

#### ②安福河伯神社

(あふくかはくじんじや)

河伯とは川の神という意味で、古来から阿武隈川の守り神であることを示しています。また、平安時代の延喜式神名帳に記された由緒ある神社です。この神社は、景行41年(111)に天皇の命で建てられたと伝えられ、巨理町内では最も古い神社の一つです。現本殿が江戸安政年代の建築であり、ほぼ原型を留めていることから平成10年、町指定の文化財になりました。



※神殿まで100段以上の階段を登ります。足元に注意し無理をしないでください。

#### ③矢抜き石

(やぬきいし)

「後三年の役」(1083～87)で、鎌倉権五郎が戦いで鳥海弥三郎に眼を射られて、この地で矢を抜くときに岩に手をつけて力を振り絞ったため石が窪ってしまったという伝説があります。この石は耕地整備で現在の場所に移されたということです。



民家の入口付近にあります。